

聖書日課 『からし種』 2023.12.3-12.10

<p>12月 3日(日)</p> <p>詩編 19編</p>	<p>「主の命令はまっすぐで、心に喜びを与え／主の戒めは清らかで、目に光を与える」(9節)、「蜜よりも、蜂の巣の滴りよりも甘い」(11節)。「あなたの心に喜びを与え、あなたの目に光を与える、蜜より甘いものは何ですか？」と問われたら何と答えるだろうか。まっすぐ清らかに「主の命令と戒めです！」と答える信仰を、主の日の礼拝からいただいきたい。</p>
<p>4日 (月)</p> <p>詩編 20編</p>	<p>「戦車を誇る者もあり、馬を誇る者もあるが／我らは、我らの神、主の御名を唱える」(8節)。王たちは競い合って戦車と馬の増強に励んだ。しかし聖書は「馬を増やすな」(申命記 17:16)と教えている。主なる神の御心を求め、その戒めを忠実に実行することこそが王の務めだからである。戦車と馬の数ではなく、主なる神により頼む信仰を求めていこう。</p>
<p>5日 (火)</p> <p>詩編 21編</p>	<p>「主よ、王はあなたの御力を喜び祝い／御救いのゆえに喜び躍る」(2節)、「王は主に依り頼む。いと高き神の慈しみに支えられ／決して揺らぐことがない」(8節)。王のように権力と富を欲しいままにできる者が、主なる神に謙遜に従う信仰を持ち続けることのなんと難しいことか。神の慈しみにしっかりと根ざし、主の御力を賛美する信仰をいただいきたい。</p>
<p>6日 (水)</p> <p>詩編 22編</p>	<p>「主よ、あなただけは／わたしを遠く離れないでください。わたしの力の神よ／今すぐにわたしを助けてください」(20節)。「エリ、エリ、レバマサバクタニ」で始まる詩編22編を読む時、主イエスが十字架の上でどれほど切実に神を求め祈られたかがひしひしと伝わってくる。今日も不条理の下に置かれている一人ひとりと、インマヌエルの主は共におられる。</p>

聖書日課 『からし種』 2023.12.3-12.10

<p>7日 (木)</p> <p>詩編 23編</p>	<p>「主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。主はわたしを青草の原に休ませ／憩いの水のほとりに伴い／魂を生き返らせてくださる」(1-3節)。パレスチナの厳しい自然の中で、羊飼いは日々愛情を注いで羊の世話をした。嵐の日も日照りの日も羊と寝起きを共にして命を養った。真の羊飼いなる主イエスの養いを受け、その声に聴いていく者とされたい。</p>
<p>8日 (金)</p> <p>詩編 24編</p>	<p>「城門よ、頭を上げよ／とこしえの門よ、身を起こせ。栄光に輝く王が来られる。栄光に輝く王とは誰か。強い雄々しい主、雄々しく戦われる主」(7-8節)。エルサレムの城門から都の中に入って行く主、世界の悪に勝利された「栄光に輝く王なる神」をたたえた詩編。ただ主イエスの救いを信じる者にとつての「勝利」は「十字架の愛」であることを心に刻みたい。</p>
<p>9日 (土)</p> <p>詩編 25編</p>	<p>「御顔を向けて、わたしを憐れんでください。わたしは貧しく、孤独です。悩む心を解き放ち／痛みからわたしを引き出してください」(16-17節)。誰からも理解してもらえぬ孤独に沈み、苦しみがいている魂を想う。どのような状況・場所でも、神に向かう叫びのあるところに主は慈しみのまなざしを注がれる。今日、主の救いがその心を照らしてくださるように。</p>
<p>10日 (日)</p> <p>詩編 26編</p>	<p>「あなたの慈しみはわたしの目の前にあり／あなたのまことに従って歩き続けています」(3節)。人生の荒野を日々歩き続ける詩人は、父祖が伝える出エジプトの雲の柱、火の柱を思い起こしているのだろうか。主の慈しみをひたすら目の前に、主の真実に背中を押されて、迷いながらも最後まで歩き通す道が、詩編で歌う「完全な道」なのかもしれない。</p>